

1年間の分館活動を振り返って

～平成29年度に行われた活動の一端を紹介します～

第一区 マレットゴルフ大会

分館長 塚原 弘巳

去る九月十日、第一区分館では二十七回目となる「区民マレットゴルフ大会」を開催しました。このスポーツ大会は、区民の皆様の人気が高く、私たち分館も年間事業の中で重要視する事業となります。そのため本年は従来と趣向を変え、いずみ湖公園に開催地を移し実施しました。



幸い好天と穏やかな秋日和に恵まれ、また分館スタッフの区民の皆様への周知など、大会準備への熱意も加わり、参加者は例年の二割増となり、興奮した賑わいの中での大会のスタートとなりました。競技では、高原のさわやかさと、よく整備されたコースでのプレーにより参加者から好評を得ることができました。もちろん、私を含め分館スタッフも競技に参加しましたが、心地よいプレーを満喫した半日となり、次年度もこの大会が本年同様の楽しい事業として継続されればと願っています。

第二区 諏訪の海、知多の海

分館長 保科 勝俊

夏の日差しに輝く南知多の海をめぐらして、バスは出発。車中で配られたしおりは、御年九十歳の参加者が、一足早くインターネットで旅して集めた情報をパソコンで作り上げた手作りのもの。行く先々のコメントが的確で、バスは順調に南知多の海に到着。大人も子どもも全員で力を合わせて地引き網を引き揚げ、捕れた魚の種類や特徴などを漁師の方から話を聞いたり、魚にふれたり。その後は、海鮮バーベキューを楽しみました。



南知多との身近な交流は、恒例となっている鮮魚の配布。折しも今年は下諏訪レガッタ前日に催され、翌日のレガッタには分館から二クルーが出場。湖上から我が区のシンボル城山を望み、南知多の旅、諏訪湖ナイトクルージングとは、また違う思い出を作ることができました。



第三区

史跡探訪 まちあるき

分館長 諏訪 敏和



第三区では、例年行っている史跡や歴史を訪ねる催しで、本年度は七月一日に三角八丁エリアを散策しました。

あいにくの雨模様ではありましたが、児童三名を含む二十名の参加を得、講師には元諏訪湖博物館長の宮坂徹さんを迎え、下諏訪駅を起点に、魁塚（相楽塚）、おんばしら館よいき、万治の石仏、御作田社などを経て、埋蔵文化財センターを訪れました。

魁塚では、講師から相楽総三らが下諏訪宿で捕縛された経緯や名誉回復への遺族の活動経過とともに、毎年例祭が相楽会によって執行され、来年は百五十年の節目を迎えることなどの説明があり、おんばしら館では祭の由緒や伝統文化の説明、展示の見学、現実の祭では接することのできない木落しの疑似体験など、それぞれに関心を寄せていました。



第四区 マレットゴルフ大会

分館長 宮坂 正則

秋の始まり、十月一日快晴の中、いずみ湖マレットゴルフ場において、五十名程の参加で大会を行いました。今年も家族での参加が多くあり、大人から子どもまで楽しくプレーをしていました。なかでも、コースを熟知している年長の方と同じ組でプレーしている方々は、「打ち方のコツや、何処に転がせばいいか？」教わりながらプレーしていたので、スコアもとても良かったようでした。



表彰式は研修の家で行いました。婦人会、保健指導の皆さんで作っていただいた豚汁をいただきながら、ビンゴゲームを行い、賞品が当たる度に、大きな歓声が上がっていました。男性、女性、子ども、各優勝、準優勝などが発表され、



大きな拍手で盛り上がりました。来年は「十八ホールより多く、三十六ホールくらいでプレーをしたい。」というお言葉をいただき、今年のマレットは終了しました。

第五区

区民ボウリング大会

分館長 鈴木 昭徳



第五区分館では、九月九日（土）スポーツ岡谷で総勢四十名の参加をいただき、区民ボウリング大会を開催いたしました。区民の親睦と体力増進を目的に実施いたしました。

子どもから大人まで、各レーンに分かれ、ハイスコアを目指し楽しんでいる区民の皆さんの姿を垣間見ることができました。

区民の皆さんの交流も深まり、たくさん笑い声や真剣にプレーする姿が印象的でした。大会の最後に上位入賞者に景品授与があり、豪華賞品が当たる度に歓声が会場に響いていました。ボウリング大会が区民の親睦と体力増進に繋がったので、有意義な大会になったと思います。



第六区 文化祭

分館長 湯本 敏夫

晩秋の十一月五日(日)に、恒例の六区文化祭を開催しました。今年も区民の皆様に作品の出品をお願いしたところ、数多くの力作が集まりました。絵・編み物・タペストリー・身の丈はあろうかと思うほどの吊るし雛など、展示をする役員が楽しくなるような作品ばかりでした。陶芸教室での作品も、乾燥し、色付けをし、そして焼き上げられ、立派に仕上がった完成品と対面するのもまた楽しみでした。大皿や小皿、コーヒーカーップにすり鉢まで出来上がりしました。

今年の展示の中では、氷の彫刻と、彫刻刀で仕上げた仏像が展示され、見学の皆様を目を見張る充実した文化祭ができました。秋晴れの日曜日、山の紅葉も味を添えてくれ、作品を出品していただいた方々、見学の方々、良き交流の場となりました。今後も継続する事業としていただきたいと思っています。



第七区

区民ソフトボール大会

分館長 宮坂 彰



七月九日(日)、区民ソフトボール大会を下諏訪中学校校庭で、盛大に行いました。当初週末の天気予報は芳しくなく、雨天時のソフトボールの準備も必要になるかと心配しておりましたが、前日当日共に晴天に恵まれ、無事大会を挙行することができました。

当日はまぶしいくらいの太陽の下、気温の上昇に呼応するかのような熱戦が両グラウンドで展開されました。町内一体となり試合も応援も盛り上がった素晴らしい大会となりました。プレイ中には笑い声や歓声が聞こえて、和気あいあいと競技を進めることができました。

今後もソフトボール大会という、老若男女誰もが気軽に楽しめる行事を継続的に企画し、第七区の行事として定着していつてくれれば嬉しく思います。



第八区 神明神社祭

分館長 手塚 修

毎年秋、神明神社祭が、宵祭り和本祭りの二日間、八区公民館で開催されます。氏子会が中心となり、各種団体が協力して祭を催します。公民館も裏方として、祭の設営や初日の宵祭りの舞台準備に協力しています。

十月七日の宵祭りは、小学生たちのダンス、各種団体の方々の演目が披露されました。また今年は、「フォーク夢列車」の方々を招き、会場の皆さんと一緒に合唱を楽しみ、演目最後の大抽選会まで大盛況の内に宵祭りを終えることができました。

翌十月八日の本祭りは、早朝より晴天の中、長持ちや子ども御輿が町内を練り歩き、午後からはお社で神事を催し、相撲の奉納を行いました。その後の区民パーティーでは、飲み物、おでん、焼きそば等全て無料で振る舞い、多くの区民の方々と親睦を深め、楽しい一日を過ごすことができました。



第九区 星が丘の夏の宵祭り

分館長 与曾井 秀治

星が丘では、毎年八月の第一土曜の夜に、夏祭りを開催しています。今年度は八月五日でした。夏祭りは、夕方の五時頃から小学生の開催アナウンスで開始しています。各種模擬店は、お母さんが手伝ってくれますが、ほとんど子どもたちが対応しています。開催の五時頃は、まだ明るいので、子どもたちがボンボン釣り等をしてにぎわっています。その後暗くなるにつれて大人の出席者が増え、生ビール等がよく売れるようになります。夏休みを利用して実家に里帰りをしている子どもたち、また親も旧交を温めたりと、毎年和気あいあい、とても楽しい雰囲気です。

毎年、雨を心配しており、今年は二十時三十分頃から大雨になりました。ですが、小学生の花火と区民全員による盆踊りのメインイベントを実施した後であったので、公会所でのみんなの押し合いへし合いも、これはこれで楽しい思い出となりました。秋祭りや夏祭りが、星が丘の二大イベントです。和気あたたかいの雰囲気の中、開催できてホッと安心しました。



第十区 若宮神社例大祭宵祭り

分館長 宮坂 明

秋の訪れが感じられる九月二十三日（土）若宮神社例大祭宵祭りを、公民館において開催いたしました。夕方六時四十五分に開店！焼きそば・チョコバナナ・ポップコーン・綿飴・焼きもちこし、また露店でおなじみの輪投げ・射的・ボンボン釣り等々、皆さんの工夫、アイデアで楽しくできました。辺りも暗くなり、祭も盛り上がる頃、恒例のビンゴゲーム・映画鑑賞と、子どもも大人も和気あたたかいの楽しい時間を過ごせたと思います。

どこの地区も同じですが、昨今子ども的人数が減っています。そこで今回、小学生・中学生に協力をお願いし、準備から販売まで一緒にやってみました。賛否両論ありましたが、子どもたちも「楽しかった！」と言ってくれました。今後も地域の伝統ある祭や行事を区民の親睦のためにも工夫し、続けていってほしいものです。改めて地域の繋がりが、大切さを感じた祭でした。



分館とは？…今月号で取り上げた「分館」について、係の方に説明していただきました。

地域が地域住民のために行う自主的な社会教育活動の推進を図るため、下諏訪町公民館に分館を置くことができる条例が、昭和41年に定められました。分館では、教育委員会が委嘱する分館長、副分館長、分館主事を中心に、様々な地区行事を実施しています。また、地域ぐるみで子どもたちを育てる「コミュニティスクール」の考えの基、より多くの子どもたちが参加できる地区行事が計画されるようになったことで、行事の運営に子どもたちが携わることも増えています。

たくさんの出会いの中で



仲町 藤森 せつ子

現在八十一歳の私です。少しの失敗も年のせいにしてきているこの頃です。こんな甘え心に思いつ出すことは昔のことです。私は五人兄弟の末っ子に生まれましました。大変な時代で、仕事は無く食べるものもない。両親は山仕事に糸取りにと、朝から暗くなるまで何でもして働いていました。私たち兄弟も新聞配達をし、山へ摘み草に行ったり、田んぼでいなごを取ったり、諏訪湖でつぶやしじみを拾い、ご飯のおかずを作りました。母の作る天ぷらは、最高のごちそうでした。学校でも、一つのそろばんを授業の時間帯に合わせて、教室の戸の外で受け渡しをしました。いつも兄が教室の外で待っていてくれたことを昨日のこのよ



腹話術を始めて四十年くらいいなります。保育園に勤めていた時に腹話術の講習があり、面白いなと思い、すぐに人形を買う手配をしました。そしてやってきたのが「シゲちゃん」です。名前は地味ですが、主人の「一茂」の茂をいただき、「シゲちゃん」としました。

さつそく当時岡谷にあった腹話術友の会に入り、いろいろな

ことを教えていただきました。施設やお祭りにも行き、喜んでいただきました。特に施設では、お年寄りの方が孫と思いい、だつこしてやさしく嬉しそうでした。また、保育園では、大切なお話をするときはシゲちゃんの出番でした。今はもう人形の声は出ませんが、そこにシゲちゃんがいるだけで、私のおしゃべり皆さん本気でシゲちゃんと向き合ってくれています。

退職と同時に、諏訪市の教育会館で行われていた「老人大学」へ友達と入学しました。そこでもたくさんの仲間とたくさんの経験をしました。その時の一つが「俳句」です。二十年たった今も、同じ仲間で天明先生のご指導のもと、月一回の句会と、マレットと昼食会もやっています。これからも大切な仲間との出会いに感謝しつつ、気ばらず、ゆつくりと歩んでいきたいと思っています。

マジックは、保育園を定年退職したその年に、下諏訪町の公民館講座で岡谷の林さんによる、マジックの講座があり、参加してみました。手先が器用でなければと思いましたが、道具とおしゃべりを合わせて動かせばマジックになりました。「今日は鳩が出るかい、旗かい」等言って、楽しみにしていています。マジックは衣裳も大切です。普段ではとても着られないキラキラ衣裳を着て、派手なネットワークもつけます。これも楽しいひとときです。



* 図書館からのお知らせ *

★☆☆図書館ワークショップ「写真昔語り」のご案内★☆☆

3月18日(日) 午後2時～4時

参加費無料

下諏訪町立図書館では下諏訪の古い写真をデジタル化して保存する事業を行っています。御柱の8ミリフィルムをDVDに変換しました。これらの貴重な写真・映像を見ていただきます。また、ご自宅にある古い写真をお持ちいただき、当時の様子を語り合う時間を設けます。

お気軽にお越しください。



昭和4年頃 赤砂崎飛行場

連絡先 下諏訪町立図書館 0266-27-5555



昭和初期 相楽祭



昭和30年頃 高浜プールで行われた町民水泳大会

川口 672

「諏訪養護学校、卒業。さみしいなあ…富士見方面、さみしいなあ」。息子は最近こんなことを呟けるようになった。自閉症を持つ息子が、寂しいという言葉を実感できているのかどうかは定かではない。でも時折、彼の中を通り抜ける不可思議な感覚を「さみしい」と呼ぶのか、と思い始めているのかもしれない。

巣立ちの季節、別れの季節。この季節になると、脳裏によみがえるいくつかの経験がある。やっとの事で通えるようになった保育園で、あつという間に迎えることになった卒園式。友達や先生方に温かな配慮をいただけたことへの感謝と、皆とお別れし、バスで通学に片道一時間要する特別支援学校に独りだけ進まねばならない心細さとが入り交じり、溢れる涙を抑えることができなかった。

それから十二年が経ち、自分の背丈を追い越した息子を見上げながら迎えた、養護学校との別れ。先生方に守られながら丁寧に育てていただいたことへの感謝と、これから社会の中に放たれ、どうなってしまうのだろうかという不安。このちぐはぐな感覚に、泣くに泣けない自分がいた。自閉症児の親だからこそ持てた貴重な体験だろうか。

別れの後には、新たな出逢いが待っていた。現在息子は、自閉症だからこそ見せてくれるであろう表情で「楽しいなあ」とつぶやきながら、作業所へと自分の力で通っている。

(宮尾 ひかり)